



甲府市立伊勢小学校
校長室：弦間文
〒400-0856
甲府市伊勢二丁目16-1
<http://ise-e.kofu-ymn.ed.jp/>

令和6年4月18日(木)に全国の小学校6年生と中学3年生を対象として全国学力・学習状況調査を実施しました。本校でも6年生が参加し、その結果を全国平均等と比較検証、分析を行い、児童の学力把握に努め、今後の指導に生かすことをねらいとして次のようにまとめました。この分析結果は本校のホームページにも掲載いたします。なお、調査に参加した6年生の保護者には、個別懇談の折りに個人票をもとに課題等についてお知らせいたします。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について

甲府市立伊勢小学校

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
- ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 調査問題では、上記ア)とイ)を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3 本校の結果概要

国語において平均正答率は、山梨県平均・全国平均と概ね同等である結果となりました。算数において平均正答率は、山梨県平均・全国平均からやや劣るという結果となりました。また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査(児童質問紙)では、学校生活の充実に向けて努力を重ねている様子がわかりました。

【国語】

○ 学習の定着や活用状況が良好と考えられる設問（正答率が山梨県の平均より上回ったもの）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
2一 (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したのものとして、適切な者を選択する。	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合い内容を検討することができるかどうかみる。
2一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかみる。
3二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切な者を選択する。	登場人物の相互関係や信条などについて、描写をもとに捉えることができるか見る。
3二 (1)	【話合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。	人物像を具体的に想像できるかどうかみる。

○ 課題が見られた設問（正答率が山梨県の平均より大きく下回ったもの）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切な者を選択する。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかみる。
2三 イ	【高山さん文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す。(なげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかみる。
3三	【物語】を読んで、心に残ったところと、その理由をまとめて書く。	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかみる。

< 教科における主な改善点 >

○B 書くこと 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

- ・社会や理科など、他教科と関連させながら、グラフの内容を読み取る機会を増やし、読み取った内容を他者と交流することで、多面的な見方や読み取り方を育む。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を育む。

○A 話すこと聞くこと 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・様々な教科や場面で、お互いに文章を読み合い、よいところを伝え合う活動を多く取り入れていく。

○習得した漢字について、学習時だけでなく、日常生活の中での活用も積極的に促していく。

【算数】

○ 学習の定着や活用状況が良好と考えられる設問（正答率が山梨県の平均より上回ったもの）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。	数量の関係を口を用いた式に表せるかどうかをみる。
2 (2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ。	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかをみる。
3 (1)	作成途中の直方体の見取り図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。	直方体見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる。
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる。

○ 課題が見られた設問（正答率が山梨県の平均より大きく下回ったもの）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方と考えを書く。	計算に関して成り立つ性質を利用して、計算の仕方を考察し、求め方と答え方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算ができるかどうかをみる。
5 (2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理できるかどうかをみる。
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

< 教科における主な改善点 >

○計算に関して成り立つ性質の理解とそれを利用して求め方を記述できる指導の充実

- ・ 計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりできる活動の充実
- ・ 一つの問題に対して、様々な考えを交流し合い、多角的な見方や考え方を醸成する活動の充実

○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述する活動の充実

- ・ 児童が必要なデータを読み取れているかを確認するために、データを読み取って捉えたことを伝え合う活動の充実。
- ・ 身近な 場面から興味や気付きから生じた疑問を解決できるような問題場面を設定することが大切である。

○日常生活とのつながりを意識した指導の充実

- ・ 授業に、日常生活の中から算数的事象が用いられる場面を探す活動を取り入れる。
- ・ 授業中だけでなく、日常生活の中で、機会あるごとに学習内容について振り返りを行う。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童質問紙）より () 内は全国平均。

○昨年度自己評価が低かったが、本年度全国より平均が高かった項目

(50) 算数の授業は好きですか。62.8% (61%)

昨年度は同様の質問での回答が48.4%だったが、本年度は14.4ポイント上昇した。個別最適な学びの工夫による授業改善や少人数制授業の導入の効果の現れであると感じている。

○生活習慣・学習習慣に関わって

[自己評価が全高平均より高い項目]

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。94.3% (91.6%)

(7) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。74.2% (71.1%)

[自己評価が全国平均より大きく低かった項目]

(9) 自分には、良いところがあると思いますか。71.4% (84.1%)

(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。74.3% (89.9%)

(14) 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。54.3% (66.9%)

(20) わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。68.6% (80.7%)

(3) より、生活リズムが整っている児童が多くいると思われる。携帯やスマートフォン等を所持している児童は全体の8割に及ぶが、だいたいの児童が家での約束を守り使用していることがわかる。今後も保健教育および情報モラル教育の充実を図っていきたい。

(9)(10)(14) より、児童の自己肯定感がやや低い現状がわかる。スクールカウンセラーや複数指導体制をとりながら、児童を多面的多角的にとらえ、児童の良さを本人にフィードバックしていける環境を整えたい

○学習に対する関心・意欲・態度に関わって

[自己評価が全高平均より高い項目]

(27) 5年生までに受けた授業で、PCタブレットなどのICT機器を週3回以上使用した。77.2% (59.5%)

(28-4) 【PCやタブレットなどのICT機器を学習で活用することについて】画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよくわかる。91.4% (89.8%)

(32) 5年生までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていましたか。85.8% (84.3%)

(42) 国語の授業は好きですか。62.9% (62%)

(50) 算数の授業は好きですか。62.8% (61%)

[自己評価が全国平均より大きく低かった項目]

(29) 5年生までに受けた算数の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。54.2% (67.6%)

(30) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。62.9% (81.9%)

(31) 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。59.7% (79.6%)

- (54) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。65.7% (77.9%)
(55) 算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
71.4% (83.3%)

(27)(28)(32)より、読書やICT機器など、様々なツールを使って学習に取り組んでいる様子が伺える。一人一台端末を積極的に活用してきた成果が現れている。今後はさらに思考を深める場面や意見交流などの活用場面の幅を広げ、指導の充実を図っていききたい。そのためには教職員の研修機会を増やしていきたい。(42)(50)より、児童は、授意欲をもって授業に取り組んでいる様子がうかがえるので、興味・関心を持続させつつ、一人一台端末を活用した意見交流などを積極的に取り入れ、学習活動を更に推進することで、教科学力のアップにつなげていきたい。

(29)(31)より、児童が言語活動に意欲的に取り組んでいけるよう、授業改善に取り組んでいきたい。また、(30)(54)(55)については、低学年のうちから、教科横断的な学習や総合的な学習において、日常生活と結びつけた教科の学習に意識的に取り組み授業改善を行うことで、生涯を通じて学びに向かうことができる力を養成できると思われる。そのような取り組みで、全体として学習に対する意欲が生まれ、学習に向かう意欲や関心の向上につなげていき隊と考える。



伊勢小学校では、「夢を持ち続けながら進んで学ぶ、心豊かでたくましい子供の育成」を目指し、生徒指導と学習指導の充実を両輪に、全職員が一丸となって子供たちの教育に日々取り組んでおります。また、子供たちが安心して学校生活を送れるように支援するとともに、日頃から「主体的、対話的で深い学び」への授業改善やGIGAスクール構想での一人一台端末の活用などに取り組んでおります。

「全国学力・学習状況調査の報告」は児童理解をより深めるための材料の一つです。結果を全ての教職員が共通理解する中で、今後も分析結果を踏まえ参考としながら、さらに授業改善に努めてまいります。

さらに、学校と家庭、地域が一体となって伊勢地区の子どもの教育を進めていくことも重要と考えられます。ご家庭におかれましても緊密に連携を図る中で、伊勢っ子のよりよい成長のため、今後も温かいご理解とご協力をお願いいたします。